

市内中央部 2

大淀川とその支流である沖水川、年見川に挟まれ、早水池など、水に恵まれた祝吉地区。発掘調査では弥生時代のムラや中世のお屋敷跡などが見つかるとともに、古くから、多くの人々が住んでいた地域と考えられます。また、島津発祥の伝承も残されています。

①祝吉・郡元地区遺跡群（祝吉町・郡元町）

区画整理の時に発掘調査が行われました。祝吉遺跡では弥生時代から古墳時代にかけてのムラの跡が見つかりました。当時の生活道具である土器や石器、鉄製品などがたくさん見つかりました。

松原地区遺跡群では、中世のお屋敷の跡が見つかりました。お屋敷は、大きな溝によって囲まれていて、屋敷の敷地内には、大きな掘立柱建物跡や、井戸、お墓などがあったことがわかりました。また、銭が大量（209枚）に埋められていたと思われる場所も見つかりました。

久玉遺跡では、中世と近世のお屋敷跡が見つかりました。中世のお屋敷は、室町時代のもので、1～2条の溝（道路）で囲まれたもので、東西約56m、南北約51m、面積2,856㎡の広さです。江戸時代のお屋敷跡は、溝で囲まれたもので、東西約46m、南北約26m、面積1,196㎡の広さです。遺跡からは、当時の人々が使っていたお茶碗などがたくさん見つかりました。



祝吉遺跡出土の中世の彩釉陶器（国産の釉薬がかかった陶器）とても珍しい



祝吉遺跡出土の弥生土器（絵が描かれている）



松原遺跡のお墓から見つかったお茶碗



久玉遺跡出土のお茶碗



祝吉遺跡出土の磨製石鏃

②白山原遺跡（早水町）

福祉施設をつくる時に発掘調査を行いました。この地域では数少ない、縄文時代（早期）の遺跡です。石を集めて焼いた調理場（集石）の跡がたくさん見つかりました。



集石



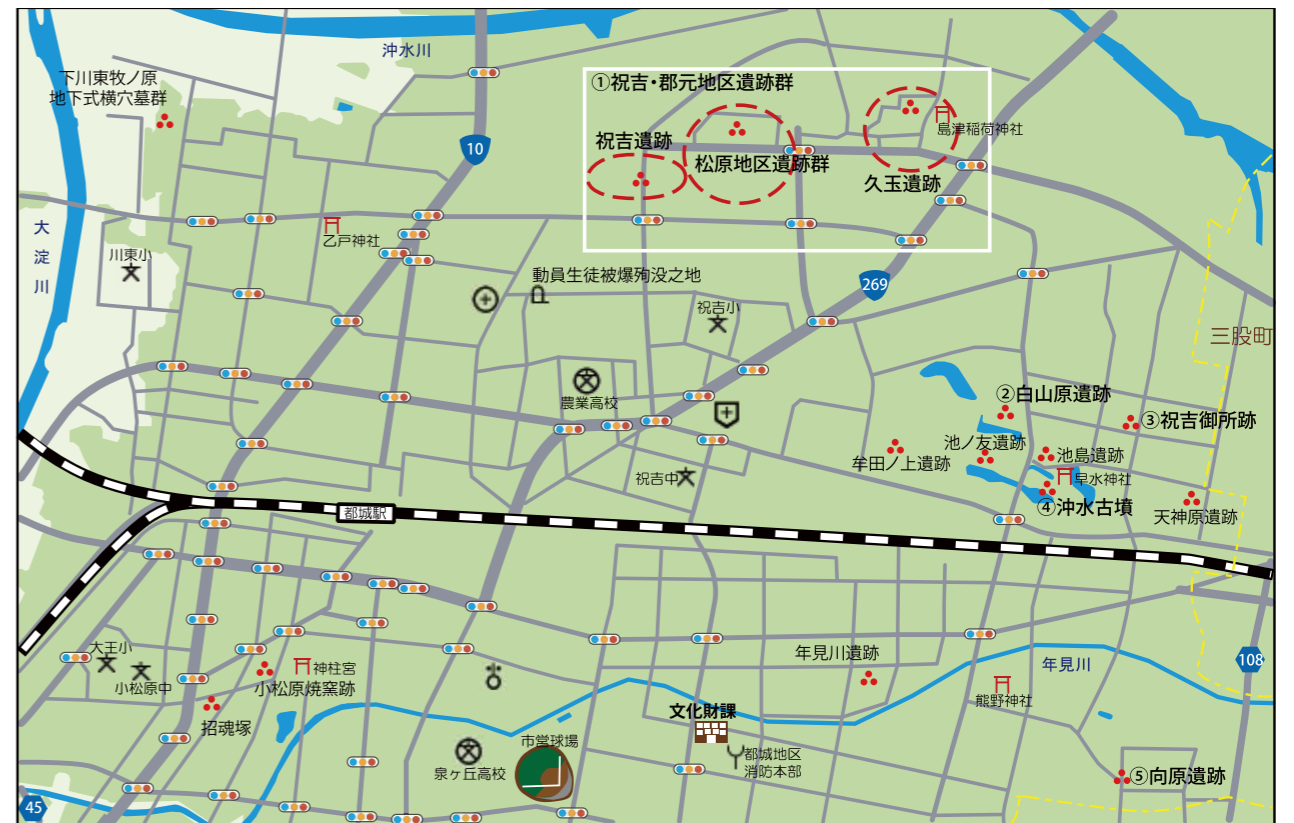
縄文土器



尖頭器

【そのほかの遺跡と史跡】

下川東牧ノ原地下式横穴墓群：古墳時代 / 牟田ノ上遺跡：弥生時代・古代～中世 / 池ノ友遺跡：縄文時代・弥生時代・古代～中世 / 池島遺跡：縄文時代・弥生時代・中世 / 天神原遺跡：中世 / 年見川遺跡：弥生時代 / 小松原焼窯跡（説明はP2）：近世 / 招魂塚：近代



③祝吉御所跡（早水町）

島津氏初代「惟宗忠久」の館があった場所といわれています。公園を整備する時に一部が発掘調査され、道路の跡や柱穴などがみつかりました。



祝吉御所跡の現在の様子

④沖水古墳（早水町）

早水神社参道沿いにあります。昭和11年（1936）に県の文化財に指定されています。

発掘調査は行われていませんが、昭和49年（1974）、墳丘の草刈をしている時に軽石製の円筒形容器と経筒、鏡、玉が見つかったことから、経塚であると考えられています。



沖水古墳の現在の様子



出土した経筒

⑤向原遺跡（立野町）

大学などをつくる時に発掘調査を行いました。

弥生時代の竪穴住居跡や溝などのほかに土器や石器など、当時の道具がたくさん見つかりました。ここからは、集落の中で鍛冶（鉄の道具を作る作業）が行われていたと考えられる資料が見つかりました。



上：向原遺跡で見つかった花びらの形をした住居（大きさは約9m×8.5m）



右上：弥生時代の甕（煮炊きをする土器）



右下：石包丁